小学校

平成8年度

教育研究員研究報告書

音楽

東京都教育委員会

平成８年度

音楽教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
中央	月島第二小	◎ 橋本 躬那子
江東	平久小	□ 石井 ゆきこ
世田谷	中町小	北 あや子
杉並	若杉小	鈴木 栄子
北	赤羽台西小	岩崎 多恵
板橋	高島第四小	奥田 裕子
練馬	旭町小	石井 眞弓
足立	鹿浜小	△ 宗像 文子
葛飾	梅田小	江口 みどり
江戸川	二之江第二小	△ 山本 恭子
三鷹	東台小	北村 佳子
町田	町田第一小	□ 鈴木 久美子
小平	小平第十二小	北田 美知子
瑞穂	瑞穂第四小	平川 律子

◎世話人　□副世話人　△記録

担当　教育庁指導部初等教育指導課指導主事　鈴木　春樹

目　　次

Ⅰ　研究主題

1　研究主題設定の理由 …… 2

2　児童の実態 …… 3

3　目指す児童像 …… 3

4　研究仮説 …… 4

5　研究の全体構想図 …… 5

Ⅱ　研究の内容

1　児童の実態の分析 …… 6

2　研究の進め方 …… 7

3　５つの視点から見た児童の姿と指導の工夫 …… 8

4　実践例

【実践１】音楽との出会いの工夫　（視点１）　第３学年 …… 10

【実践２】音楽との出会いの工夫　（視点１）　第５学年 …… 12

【実践３】音楽を味わい自分なりに感じる指導の工夫（視点２）　第４学年 …… 14

【実践４】よりよい表現をしようとする指導の工夫　（視点３）　第５学年 …… 16

【実践５】よりよい表現をしようとする指導の工夫　（視点３）　第６学年 …… 18

【実践６】自信をもって表現する指導の工夫　（視点４）　第１学年 …… 20

【実践７】学び合い高め合う指導の工夫　（視点５）　第５学年 …… 22

Ⅲ　研究のまとめと今後の課題 …… 24

＜概　要＞

児童が進んで音楽活動するためには，自分の感じ方を生かし，創造的に学習することが大切である。そこで，本研究では，５つの視点に基づき，題材ごとの指導の工夫について効果を検証した。

各実践では，５つの視点によって指導の工夫をとらえ直すことで，目指す児童像とそれを実現するための指導の工夫とが具体的に結び付くようにするなど，授業改善の方途を探った。

Ⅰ　研　究　主　題

自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動をする児童を育てる指導の工夫

1　研究主題設定の理由

毎日の音楽室での児童との楽しい出会い。児童のふとした表情に，音楽に対するあこがれを見つけた時。「もう一回やりたい。」と気に入った曲を何度も演奏する楽しそうな顔。「毎日，音楽があるといいなあ。」という，嬉しいつぶやき。こんな児童と出会う時，私たちは大きな喜びを感じる。音楽が大好きな児童に育ってほしい。これは音楽科の授業に携わる私たちの心からの願いである。

これからの学校教育が目指す，自分で課題を見付け，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する能力を音楽科では，どのようにとらえることができるであろうか。また，児童が主体的，創造的に生きていくことができるように，自ら進んで考え，判断し，自信をもって表現したり行動したりすることができる資質や能力の育成のために，音楽科ではどのような支援をすることができるであろうか。私たちは，この答えを日々の児童の姿や言葉の中から見付けたいと考えた。

「私は音楽が好き。」「ぼくはこの音楽のこういうところが好き。」「この曲かっこいいなあ。」という児童の主体的な音楽との対峙の仕方こそが，自分の音楽に対する感じ方を追究する姿を実現することができると考える。その時点で，より深く音楽のよさや美しさを感じ取り，創意工夫を生かした表現をしたいという欲求が生まれてくる。また，児童の側からの内発的欲求として，「どうしたらいいんだろう。」という疑問とともに，声の出し方や楽器の扱い，奏法，楽譜の読み方などに対する基本的な理解を深める学習の重要性を，児童自身が感じ取ることができる。さらに，友達とのかかわりの中で，音楽活動することの楽しさを味わうことができると考える。

そのような児童の姿を，「自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動をする児童」としてとらえた。さらに，互いに認め合い，励まし合える友達や教師との温かな信頼関係を確かなものにしていくことによって，児童は伸び伸びと自信をもって音楽活動することができると考えた。このような音楽活動の中で，自分が認められる喜び，友達と高め合いながら音楽をつくり上げていく経験の積み重ねは，児童が生涯にわたって音楽を楽しむための基盤になる。そのために，児童が音楽活動に進んでかかわり，表現できるよう支援する指導の工夫を目指して本主題を設定した。

2　児童の実態

研究を進めるに当たって，本研究員の所属校の児童の実態について，話し合った。その結果，つぎのような実態が浮かび上がった。

児童の実態

- 音楽の授業は好きであるが，活動が受け身になりがちである。
- 自分の感じ方に自信をもちにくいが，少人数の活動では，自分の思いや願いを出すことができる。
- 教材によっては，じっくりと取り組むことが苦手である。
- 友達の前で表現することを，恥ずかしいと感じる傾向がある。
- 友達のよさに気付くことができ，自分も認められたいと願っている。

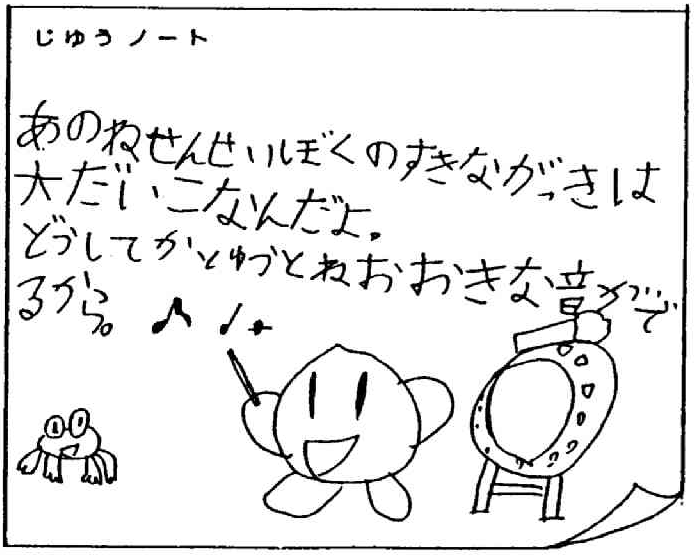
3　目指す児童像

本研究が目指す児童像は，研究主題に掲げられる「自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動をする」である。この研究主題を具現化する児童の姿，研究主題設定の理由と児童の実態について，研究協議を行い，目指す児童像として，次の５つの児童像を設定した。

目指す児童像

- 音楽が大好きな子
- 自分なりの感じ方を大切にする子
- よりよい表現を求めて工夫する子
- 自信をもって表現する子
- 学び合い，高め合う子

なお，進んで音楽活動をするためには，その基盤として，音楽を構成する要素や，音楽の仕組みに対する基本的な理解と表現の技能が必要であることを確認した。その指導が学ぶ力の育成の条件の一つであり，児童が楽しみながらそれらを身に付ける指導の工夫が必要であることも共通理解した。



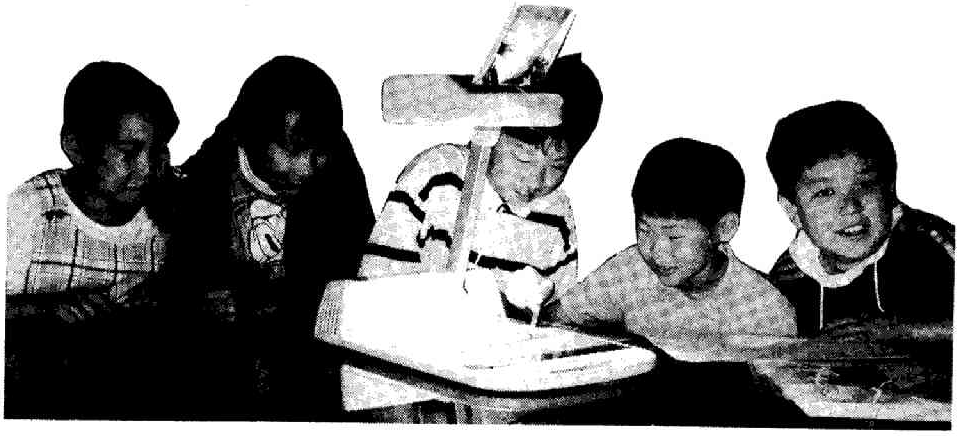
3　研究仮説

特に，低学年で顕著に見られる，「音楽が好き」という児童の素朴な感性を，継続的に引き出すために，どのような指導の工夫をすればよいのだろうか。児童は音楽をどのように感じ取り，味わいを深めていくのだろうか。

「ぼくは」「私は」という一人称で音楽と出会うようにすれば，児童は音楽に対して自分なりの感じ方，味わい方を深めていくことができるであろう。そのためには，児童から「もっと音楽とかかわりたい。」「もっと上手になりたい。」という，進んで音楽活動をしようとする思いや願いを引き出すために，教師は指導の工夫をしなければならない。児童の内発的な意欲こそが，生涯にわたって自ら音楽を学ぼうとする，生きる力の育成の重要な基盤になると考える。そこで，次のような研究仮説を設定し，研究を進めていくことにした。

研究仮説

音楽との出会いを工夫することによって，児童の音楽に対する感じ方を深めることができるだろう。また，よりよい表現をしようとする自己表現や自己実現の意欲をもつことができるようにするとともに，学び合い，高め合う人間関係をつくることができるようにすれば，児童は進んで音楽活動に取り組むようになるだろう。



5. 研究の全体構想図

研　究　主　題

自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動をする児童を育てる指導の工夫

↓

新しい学力観

・心豊かな人間の育成
・基礎・基本の重視と個性を生かす教育の推進
・自己教育力の育成
・文化・伝統の尊重と国際理解の推進

→

目指す児童像

・音楽が大好きな子
・自分なりの感じ方を大切にする子
・よりよい表現を求めて工夫する子
・自信をもって表現する子
・学び合い，高め合う子

←

音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して，音楽性の基礎を培うとともに，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て豊かな情操を養う。

↑

研　究　仮　説

音楽との出会いを工夫することによって，児童の音楽に対する感じ方を深めることができるだろう。また，よりよい表現をしようとする自己表現や自己実現の意欲をもつことができるようにするとともに，学び合い，高め合う人間関係をつくることができるようにすれば，児童は進んで音楽活動に取り組むようになるだろう。

＜研究仮説を検証するための５つの視点＞

(1)音楽との出会い
(2)音楽を味わい自分なりに感じる。
(3)よりよい表現をしようとする。
(4)自信をもって表現する。
(5)学び合い，高め合う。

＜研究の方法＞

・授業研究
・児童の実態調査と分析
・文献研究
・資料収集

↑

児　童　の　実　態

・音楽の授業は好きであるが，活動が受け身になりがちである。
・自分の感じ方に自信をもちにくいが，少人数の活動では，自分の思いや願いを出すことができる。
・教材によっては，じっくりと取り組むことが苦手である。
・友達の前で表現することを，恥ずかしいと感じる傾向がある。
・友達のよさに気付くことができ，自分も認められたいと願っている。

Ⅱ　研　究　の　内　容

1　児童の実態の分析

研究を進めるにあたって，さらに児童の実態を目指す児童像と照らし合わせ，評価できる面と課題となる面を次のように分析した。

評価できる面	課題となる面
音楽が大好きな子	
・音楽が好きで喜んで取り組む。 ・気に入った曲は何度でも演奏したがる。 ・新しい曲を知ることは楽しい。 ・遊び歌，リズム遊び，ゲーム的要素で活動が活発になる。	・楽しく表現することと遊びの区別が難しいことがある。 ・自分の好きなことだけしている。 ・指示を待つことが多く，活動が受け身になりがちである。
自分なりの感じ方を大切にする子	
・低学年では身体表現などを通して自分の感じ方を伸び伸びと表現できる。 ・少人数のグループ活動では，少しずつそれぞれの思いや願いを出せるようになってきた。	・自分なりの感じ方をしていても，それに自信がもてない。 ・人と違うことを恐れる。 ・教師に言われると表現活動をするが，自分から「こう表現したい」という姿勢に欠ける。
よりよい表現を求めて工夫する子	
・好きな曲はリズムの工夫など意欲的である。 ・グループのアンサンブルで工夫する。 ・つくって表現する活動は好きで，選んだり工夫したりする活動に積極的である。 ・やさしい重唱，カノンはよく聴き合う。	・じっくりと取り組むことは苦手である。 ・自分の感じたことを表現に生かす方法が分からない。
自信ももって表現する子	
・日直が指揮や伴奏をするなど，常時活動として定着している活動には自信をもてる。 ・教師や友達の応援，励ましによって自分の表現に自信をもてる。	・人前で表現することが恥ずかしい。 ・独唱，独奏することが恥ずかしい。 ・他人の目を非常に気にする。 ・目立つ楽器を選ぼうとしない。 ・学年が上がるにつれて自信をもてなくなる。

学び合い，高め合う子	
・友達とかかわりをもって，学習することは好きである。 ・友達や先生に認められたい。 ・友達の表現のよさに気付くことのできる児童が増えてきた。 ・友達のよい演奏を聴いて自分でもまねしたり取り入れようとする。	・友達とかかわることが苦手な児童がいる。 ・かかわり合う友達が少ない児童がいる。 ・自分の力を発揮せず，友達まかせにしてしまいがちである。 ・グループ活動でリーダーに頼りがちになってしまう。

2　研究の進め方

研究主題から目指す児童像を導き出し，研究仮説を立てるという手順で研究を進めてきたが，以後，授業研究を通して研究仮説を検証していくために，音楽の学習活動を次の５つの視点でとらえる試みをした。

視点１　音楽との出会い
視点２　音楽を味わい自分なりに感じる。
視点３　よりよい表現をしようとする。
視点４　自信をもって表現する。
視点５　学び合い，高め合う。

児童の実態を考え合わせながら，それぞれの視点でとらえた学習活動の場面での課題の解決を図るための指導の工夫を目指すこととする。その際，それぞれの場面での目指す児童像と考えられる児童の具体的な気持ちや行動を，児童の立場に立って，児童の言葉で想定し，授業を分析し，指導の目標としていきたいと考える。なぜならば，そのような児童の気持ちこそが「進んで音楽活動をする」という行動を起こさせる能力そのものに他ならないと考えるからである。ただし，これらの５つの場面は独立したものではなく，互いに関連し合いながら他の場面を導き出していくと考えられる。目指す児童像，指導の工夫，指導例を表にまとめ，次の７題材を実践例について，視点１～５に焦点化して実践した。

実践例	視点１	「日本の音楽に親しもう」	第３学年
	視点１	「音の重なりを感じて，楽しく合唱しよう」	第５学年
	視点２	「響きを味わいながら合唱しよう」	第４学年
	視点３	「星座の音楽をつくろう」	第５学年
	視点３	「ひびけ歌声，とびだせ心！」	第６学年
	視点４	「３拍子のリズムにのって」	第１学年
	視点５	「変奏曲にちょうせん」	第５学年

3　5つの視点から見た目指す児童像と指導の工夫

主題	視点	目指す児童像，児童の言葉，気持ち
自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動する児童を育てる指導の工夫	(1) 音楽との出会い	
	(2) 音楽を味わい自分なりに感じる	
	(3) 表現をよりよいものとする	
	(4) 自信をもって表現する	
	(5) 学び合い高め合う	

目指す児童像のせまるための指導の工夫	指　　導　　例
・児童の側に立った魅力ある教材選択をする。 ・音楽的先行経験を生かした教材提示をする。 ・複数の教材による柔軟な題材を構成する。 ・関連教材，視聴覚教材の開発をする。 ・身体表現や音楽ゲームを取り入れる。	・和太鼓など日本の楽器を身近に見たり触れたりする機会をつくる。**実践例 1** ・わらべうた遊びをする。　**実践例 2** ・導入に映画「サウンドオブミュージック」をビデオ鑑賞する。
・一人一人の感じ方を認める。 ・感じたことを言葉だけでなく体の動きなどで自分なりに表現する。 ・表現と鑑賞の関連を図る。 ・音楽的要素を感じ取って表現に生かす。 ・楽曲のイメージを広げる工夫をする。	・「友だちはいいな」カードで気持ちの掘り起こしをする。　**実践例 3** ・波の様子を身体表現し「海」を歌う。 ・校庭や屋上で風を体感して「春の風」のイメージを広げる。 ・絵本や物語を読み聞かせをする。
・学習カードの工夫と活用をする。 学習のめあて，自分のめあてを明確にする。 自分の学習の積み重ねがわかる手立て ・児童の思いや願いを受け入れ，表現の工夫の支援，助言をする。 ・技能習得のための工夫をする。	・つくって表現する活動でサウンドカードを活用して表現の工夫の深まりを見取る。　**実践例 4** ・ＹＭ（ヤル気マンマン）カードで自分のめあてを確かめる。　**実践例 5** ・カードを提示し，意見交換を図る。
・発表の場の設定をする。 ・自信を裏付ける個に応じた技能の指導 ・段階的な無理のない指導をする。 ・その子なりのよさを認め合える温かな雰囲気 ・自信をもたせる共感的な評価，助言をする。 ・練習時間，スペースの確保をする。	・全校集会，学年集会，校内放送等で発表する。 ・色別のリズムカードを提示し，リズム楽器を個に応じて選択する。**実践例 6** ・曜日，学年を決めて休み時間に音楽室を開放する。
・よい意見や見方感じ方を取り上げ，全体に返す。 ・グループ活動等，自分たちで学習を進める工夫をする。（学習計画　レパートリー活動） ・互いに認め合える雰囲気づくりをする。 ・ティームティーチングによる学習活動	・ＯＨＰを活用して個人の意見を全体で共有する。 ・グループで変奏曲づくり　**実践例 7** ・図工科と連携し，楽器づくりをする。 ・自由に曲を選び，教え合ってリコーダーのレパートリーを広げる。

【実践１】音楽との出会いの工夫（視点１）　第３学年

日本の音楽は，我が国の音楽であるにもかかわらず，西洋音楽に比べ，古めかしい，なんとなくおもしろくないといった感が，児童の心の中にある。しかし，和太鼓に対しては，児童は興味・関心をもっている。和太鼓のリズムと出会うことが，日本の音楽の理解の糸口の一つになると考える。また，鑑賞と表現の一体化として，和太鼓のＣＤを聴くことで，児童が和太鼓に対するあこがれをもち，日本音楽への学習意欲につながると考える。

1　題材　「日本の音楽に親しもう」

2　題材の目標

(1)　日本の楽器や日本のふしにあこがれをもって親しむ。

(2)　旋律が，“問い”と“答え”からできていることを知り，それをもとにふしづくりをする。

(3)　音楽をつくり上げる中で，友達のよさを理解する。

3　教材

「うさぎ」　　日本古謡

「かりかりわたれせ」　わらべうた

和太鼓のＣＤ

4　指導の実際（４時間）

次	学　習　活　動　　☆教師のかかわり	児童の感じ方　視点
第一次 (1)	・「うさぎ」を歌い，「かりかりわたれ」をリコーダーで吹くことにより，“問い”と“答え”の旋律であることを感じ取る。 ☆“問い”と“答え”を感じ取るよう，２つのグループに分ける。	・お月さまとうさぎがお話ししているように歌っているんだな。 ・お話ししているのは，お月さまと白いすすきみたい。
第二時 (2)	・和太鼓の演奏のＣＤを聴く。 ☆あこがれを高め，意欲につなげる。 ・口伝誦による太鼓のリズムを机で打つ。 ・グループごとに，タイヤ・たる・しめ太鼓和太鼓を使って，音楽室の内外のいろいろな場所で，口伝誦「サントコドッコイ」を打つ。 〈♩ ♫♩ ♩〉 ☆児童の高まった気持ちを大切にする。 ・自分の感じ方を生かして“問い”のふし（	視点(1)　音楽との出会い ・すごいなあ。 ・かっこいいなあ。 ・やってみたいけど，むずかしそうだな。 ・これならできそうだ。 ・たのしいなあ。 ・もっとやりたいな。 視点(2)　音楽を味わい自分なりに感じる

	（レソ ドソ レド レソ ）に対する答えのふしをつくる。 ・つくったふしをたんざくに書く。 ☆書きやすいように，たんざくを用意する。○が♩を表す。 ○○○○ ・友達同士“問い”の部分，“答え”の部分の役割を決めて聴き合う。 ☆できた児童の作品を提示する。	・これでいいのかな。 ・むずかしいなあ。 視点(3)　よりよい表現をしようとする ・“問い”と“答え”になっている。 ・いい感じだな。 ・○の中に音を二ついれてもいいんだな。
第三次 (1)	・４人がつくった作品の順番を決め，８小節の曲にまとめ，グループごとに発表する。 ☆児童の気持ちの高まりを大切にするために，和太鼓，締太鼓を入れて演奏する。 ・他のグループのよいところに気付く。	・太鼓を入れて演奏したいな。 視点(1)　音楽との出会い 視点(4)　自信をもって表現する 視点(5)　学び合い，高め合い

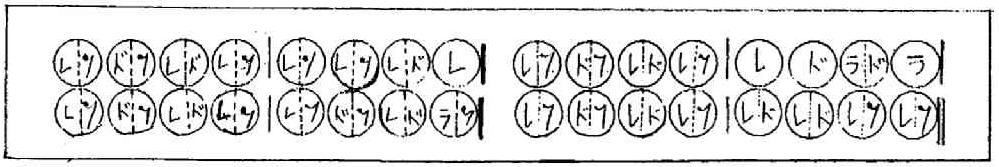
5　考察

「うさぎ」を歌い，「かりかりわたれ」をリコーダーで演奏したことにより，児童たちには“問い”と“答え”のふしで，できていることが確認できた。

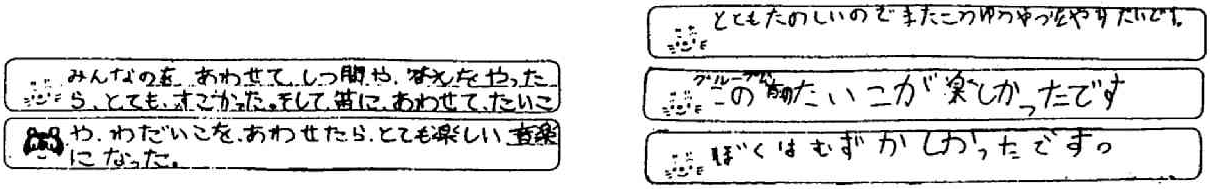
和太鼓の演奏のＣＤを聴いた時に，児童の目が輝き，体をくねらせ，楽しそうにした動作は，児童の心を「ハッ！」とさせ，ゆさぶりかけた結果であり，まさに私たちが研究してきた視点(1)「音楽との出会い」にほかならないと考える。

また，視点(2)の「自分なりに感じる」ことの証しとして「こんなに難しいのできない。」という言葉が，自然に発せられたと考える。教師の支援として，「だいじょうぶ，基本的なリズムの練習から始めるから。」と声かけをし，「サントコドッコイ（♩♫♩♩）の基本的な練習に入ると，どの児童も生き生きと活動していた。研究主題の「進んで音楽活動する児童を育てる指導の工夫」のひとつであったと考える。

＜児童の作品＞



＜児童の感想＞



【実践２】音楽との出会いの工夫（視点１）　第５学年

「この歌楽しそう，歌ってみたい。」と感じる合唱との出会いの場の工夫をしてみた。アカペラの合唱を取り入れ，互いに聴き合うことで，同じ音が重なる所，３度の音の重なり，リズムの変化，ソプラノとアルトのからみ合い，歌詞のおもしろさから音楽を感じることをねらった。範唱を聴いて歌えたことを楽譜で確認し，「歌えそう，できそう。」と自信をもてるよう考えてみた。互いに聴き合って心地よく歌い，子供たちが合唱を工夫し，楽しく音楽活動ができるように考えた。

1　題材　　「音の重なりを感じて，楽しく合唱しよう」

2　題材の目標

(1)　拍の流れを感じて表現する。

(2)　互いに聴き合い，音の重なりを感じて表現の工夫をする。

3　教材

「口ぶえふいて」　　久野　静夫作詞　ドイツ民謡

「ましろいゆり」　　茂手木節子作詞　コダーイ・ゾルターン作曲

「五月の太陽」　　羽仁　協子作詞　ウァシュ・ラヨシュ作曲

4　指導の実際

次	ねらい	学習活動
第一次 1 2	・曲の特徴に気付く。　（視点１） ・音の重なりを感じ，きれいな響きを味わう。（視点２）	・範唱から，同じふし，違うふしを聴き取る。 ・ふしの変化・リズムの変化を感じて歌う。 ・互いに聴き合い，音の重なりを感じ取って合唱する。 「口ぶえふいて」「ましろいゆり」
第二次 3 4 5 6	・感じたことを生かし，合唱の工夫をする。（視点３・５） ・互いに聴き合って歌う。	・「ましろいゆり」を二重唱する。 ・『二重唱した後，気持ちがよかった』 ・「五月の太陽」のソプラノを歌う。
	・ふしの特徴を感じ取り，合唱する楽しさを味わう。（視点１）	・アルトの特徴に気付き，そのおもしろさを感じて，楽しく合唱する。
	・グループで発表し，音の重なり，各パートのふしのからみ合うおもしろさを感じ合う。（視点４）	・ソプラノ・アルトが交互に出てくる楽しさを感じて合唱する。

第５時の指導

(1)　本時のねらい

アルトのふしのおもしろさに気付き，楽しく合唱する。

(2)　本時の展開

学　習　活　動	・支　援　　◇評　価
・わらべうた遊びをする。 ・「五月の太陽」のソプラノを歌う。アルトを聴き，気付いたことを発表する。 『同じ音が繰り返しドソラシと聴こえる。動物の鳴き声が聴こえる。』 ・アルトのふしを歌う。	・楽しく歌う雰囲気をつくる。 ・教師がアルトを歌い，その特徴（四つの音の繰り返しでできていて，リズムだけが違うこと）に気付くようにする。
・楽譜で確かめ，階名唱をする。 ・歌詞の楽しさを感じながら，児童と教師で合唱する。 ・音の重なりを感じて，児童だけで合唱する。	・音やリズムの特徴を楽譜で確認する。 ・教師が片方のパートを歌って，音の重なりを感じるようにする。 ◇音の重なりを感じて，楽しく合唱しようとしている。

5　考察

本時では，範唱からアルトの特徴を聴き取り，その特徴を楽譜で確認し，合唱に導入することの工夫をした。ドソラシの音の繰り返しでできていること，リズムだけが違うことを聴き取り歌うことができた。それを楽譜で確認し，『これなら歌えそう。』と感じがつかめ，自然な流れで合唱に導入できた。その結果，次のような感想をもった。

「五月の太陽」を始めて歌ったのにきれいだった。とても楽しく歌えました。
アルトのドソラシのところがおもしろかった。特にブンブンブンブン，ケロケロケロケロ

この児童の気持ちが次時の活動にも生きてきて，グループの話合いや，聴き合い，合唱する活動の中で互いに教え合ったり，きれいな合唱にするための工夫がみられ，児童の力でグループの合唱が進められた。

音を聴き取ってその感じをつかみ，表現できるようになってきた。これから更に歌詞の内容を大切にした歌い方を工夫したり，和声・フレーズなど，楽曲を特徴付けている要素を十分感じ取って曲想表現を工夫し，気持ちを込めて歌うことを目指したい。

《グループ活動の子供の声》

T君が歌えてなかったのでいっしょに歌ってあげて，歌えるようになった。
発表の時もちゃんと歌えた。

ソプラノとアルトのバランスがよくなるように声部をとりかえてみた。そしたらうまくいった。

【実践３】音楽を味わい自分なりに感じる指導の工夫（視点２）　第４学年

本実践は，児童の心情により近い教材選択をし，楽曲に対する気持ちを分析的にもとらえることで，歌唱表現に生かすように意図した。

教材『友だちはいいな』は，ゆったりとした雰囲気をもつ曲で，終わりのふしの６度の音程は，ロングトーンで歌うことで十分に響きを味わうことができる。また，旋律の自然な抑揚を感じることで，気持ちの高まりを率直に歌い上げることができる。詩も分かりやすい言葉で書かれており，４年生の初めで友達との新しいかかわりの楽しさの中にいる児童の心情によく合っていると思われる。また，実際に友達とペアをつくってリコーダーの練習をしたり，他教科でのグループ活動の様子を思い出すなどして，この曲を歌っている時の自分の心の動きを簡単に文章で表現し，曲のもつ雰囲気をつかみ，より生き生きとした表現ができるように工夫した。

1　題材　　「響きを味わいながら合唱しよう」

2　題材の目標

(1)　歌詞を味わい，気持ちを込めて歌えるようにする。

(2)　二部合唱の響きを聴き合いながら，伸び伸びと歌えるようにする。

(3)　教師や友達の声を聴き，進んでよりよい歌声を求めて活動しようとする。

3　教材

「友だちはいいな」　　繁下　和　雄作詞・小山　章三作曲

「とんび」　　葛原　しげる作詞・梁田　　貞作曲

4　指導の実際（５時間）

次	ねらい	○主な学習活動　・子供の感じ方	☆指導の工夫
第一次①	曲の雰囲気をつかみ，詞の内容を理解する。	○　「友だちはいいな」の範唱ＣＤを目をつぶって聴く。 ・一緒に楽しく遊んでいる時やけんかして仲直りした時は友達っていいな。	☆　目をつぶって聴くことで自分の気持ちと向き合い，友達とかかわることの楽しさに気付くようにする。
第二次②	二部合唱の響きを味わいながら，合唱する。	○　二部合唱する。 ・「終わりのふし」の合唱がよく合って気持ちよく歌えるなあ。 ○　「とんび」のリコーダー練習をする。 ○　合唱の仕上げをする。「友だちはいいな　カード」に気持ちを書く。 ・心と心が通じ合うような楽しい気持ちで歌いました。	☆　他教科のグループ学習で友達とのかかわりを書いた感想文を読み合い，詞をより深く味わうようにする。 ☆　リコーダーのペア練習をすることで，実際に友達とふれ合う時間をつくる。 ☆　四つのポイントに整理して自分の気持ちを言葉で表してみる。

第三次②	自信をもって歌えるようにする。	○　「友だちはいいな」を，少人数で合唱する。 ○　互いの合唱を聴き合い，自分の考えをもつ。 ・声は小さいけれど，ハーモニーがよく聴こえる。 ・ちゃんと合唱になっている。	☆　「友だちはいいなカード」（下記参照）を読み合い，気持ちを高めるようにする。 ☆　友達のよいところを見つけるように助言する。 ☆　自分の考えを自由に言い合える温かな雰囲気になるように配慮する。
		○　学級での合唱の仕上げをし，レパートリーに加える。	○　いつでもどこでも歌えるようにする。

5　考察

教師は日頃から児童の感じ方を児童の言葉でつかむ努力をすることが大切である。そこで，本実践では，以下の四点の指導の工夫について検証した。

一点目は，楽曲との最初の出会いでは，楽曲全体の雰囲気をとらえるようにした。特に，教師の側からヒントを与えず，範唱ＣＤを目をつぶって聴くようにした。その結果，児童は日頃，遊んでいる時のこと，友達とのトラブルを乗り越えた時のことなどを思い出しながら歌った。

二点目は，ソプラノ，アルトのパート練習をして，ある程度「終わりのふし」の合唱ができた時点で，もっと深く歌詞を味わって歌うようにした。

三点目は，他教科でのグループ活動を通して書いた感想文を読み合った後，この楽曲についてどんな気持ちで歌いたいか，四つのポイント（下記参照）でカードに書くことで，児童の気持ちが率直に表れるようにした。観点をはっきりさせて書くことで，自分の気持ちを深く表現できるようになり，曲の山や盛り上がりなどを意識して歌うことができた。

四点目は，頭の中で考えたり，文章に表したりするだけでなく，リコーダーを二人の児童によって練習することで，実際に友達とふれ合う機会をつくった。自分がまだ吹けないところを教えてもらったり，友達と合わせる喜びを味わったりするうちに，人間関係が深まり，歌詞もていねいに歌うようになった。今まで，互いに向き合って仲のよい友達の顔を見つめて歌うことを，日常の活動に取り入れてきた。友達の合唱を聴き合って，自分の考えを発表し合う場面では，温かい雰囲気の中で，互いのよい点を言うことができるよう配慮した。

以上のことから，自分の心を旋律にのせて歌う経験の積み重ねによって，児童は体全体で自分の気持ちを表現できたものと考える。

友だちはいいな　4-2　名前

①どんな時に「友だちっていいな」と思いますか。
本当にこまっている時に，たすけてくれた時，たのしく遊んでいる時，

②この歌であなたが一番気持ちよく歌えるところはどこですか。
ことばで書いてください。
「こころとこころが通しあう」「笑うこびかなしみもわかちあう」などの高い音のところ

③歌いにくいところがありますか。またそれはどうしてだと思いますか。

ありません。

④きょうあなたはこの歌をどんな気持ちで歌いましたか。
はじめは ちょっといやなことがあって不気げんな気持ちでしたが，この歌を歌いはじめてからは，にこやかなうれしい気持ちになりました。

【実践４】よりよい表現をしようとする指導の工夫（視点３）　第５学年

本事例では，星座に関する絵や短いお話から音を想像し，構成を考えながら音楽をつくって表現していくことが大切である。そこで，表現として工夫していく段階では，児童にできるだけ活動を任せることで，自分の感じ方を生かした表現になるようにしていく。そのための指導の工夫として，音を想像しやすい星座の絵や短いお話を教材開発しておく。また，サウンドカードによって，①音楽づくりの記録，②自分の感じ方や表現の振り返り，③教師の朱書きによるコミュニケーション等の指導の工夫をしていく。さらに，参考になる音楽を音楽的な要素に視点を当てて鑑賞することで，自分たちの表現に生かすようにする。

本事例における指導の工夫についての検証は，サウンドカードの記録，行動観察，事後の感想等により，児童の感じ方や表現の工夫の深まりを，研究の視点に照らし合わせて解釈した。

1　題材　　「星座の音楽をつくろう」

2　題材の目標

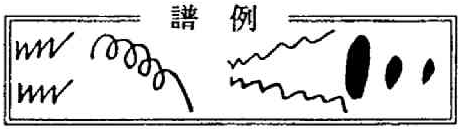
(1)　グループで協力して，星座の絵や話などのイメージから音楽をつくる楽しさを味わう。

(2)　様々な音の素材がもつ音色の特性を生かして，音高やリズム，音の重ね方，構成などに気を付け，星座のイメージを音楽で表現する。

3　教材

『冬の星座と星ものがたり』より「オリオン座」，「おうし座」，「こいぬ座」，「ふたご座」，「プレアデス座団」（星座の資料），「星座はいつも」（歌唱），「アポロンのまわりで」（鑑賞），「星座シンフォニー」（鑑賞），音の出る道具や楽器

4　指導の実際（８時間）

＜第一次＞（２時間）【ねらい】星座についてのイメージを広げ，「星座の音楽」の構成を自分たちで決めるようにする。	
○　主な学習活動と児童の感じ方	☆　指導の工夫
○　星座の絵を見たり短いお話を読んだりして，自分がつくりたい星座の音楽についてイメージをつかむ。 ○　イメージに合うような星座の音楽についてグループで話し合い，構成や分担を決める。 サウンドカード 5の（2）（オリオン座）グループ　名前　M・M 10月　29日（火） 私は、女神のやさしい感じと人間を魔に変えてしまうほどの恐ろしい感じを出してみたいです。 者は、鉄琴やシンセサイザーの音を組み合わせて音楽をつくりたいです。 ☆☆☆	《発問の工夫》 星座の世界では，どのような音がきこえてきますか。 ☆　図形楽譜等を用いて，音をイメージできるようにする。 譜例  ☆　「アポロンのまわりで」や，「星座シンフォニー」を聴き，音楽的な要素に気付くようにする。（強弱・音色・速度等）

＜第二次＞【ねらい】グループごとに，「星座の音楽」のイメージに合った音の素材を選び，音楽として構成していく。（4時間）	
○　主な学習活動と児童の感じ方	☆　指導の工夫
○　クループで星座のイメージに合う音を探し，表現を工夫する。 サウンドカード 5の（2）（オリオン座）グループ　名前　M.M 11月　10日（木） ・まん中の部分は激しい感じになるようにしようと思います。打楽器でやってみようかしら？ （グロッケン） ※いい所に気がつきましたね，リズムを細かくしてみたらどうかな？（先生より）	☆　表現を工夫する段階では，できるだけ児童に活動を任せる。 ☆　必要に応じ，児童が工夫した音楽を紹介しながら，自信をもつようにする。 ☆　サウンドカードには以下の観点で朱書きをし，児童の課題意識を支えるようにする。 ①賞賛　②共感　③情報提供

＜第三次＞【ねらい】グループごとの「星座の音楽」をつなげて演奏し，学級の「星座音楽ストーリー」を完成させていく。（2時間）	
○　主な学習活動と児童の感じ方	☆　指導の工夫
○　各グループの音楽をつなげて演奏し，録音する。 ○　メッセージカードを読み合う。 メッセージカード （こいぬ座）グループ　5の（1）名前　S.T こいぬ座は，名前のかわいいイメージとちがって，とってもアクティブなところがしてました。さいしょはやさしいようせいのようすがグロッケンを前にさえて，だんだんのろいのシンバルの音がはく力をまして，低い音で結末をあらわしていたのがよかったです。	☆　全体の構成を，各グループの音楽の特徴をとらえた上で考えるようにする。 ☆　以下の観点で鑑賞し，メッセージカードに書くようにする。 ①感じに合っている音色の選択 ②工夫しているところ ③音楽の変化とまとまり

5　考察

本事例は指導の工夫として，①音を想像できる教材の開発，②サウンドカードの活用，③音楽的な要素に視点を当てた鑑賞，の3つを意図した。

M子は第1時での発問の工夫や星座の資料の提示等によって前項のような感じ方をサウンドカードに書いた。

また，第4時のサウンドカードには，教師の共感的な朱書きや友達とのかかわりによって，さらに表現を工夫しようとするようになっていった。

表現に生かすための鑑賞では，児童がつくっている作品と似たような作品を，音楽的な要素に視点を当てて聴くようにすることが有効であった。

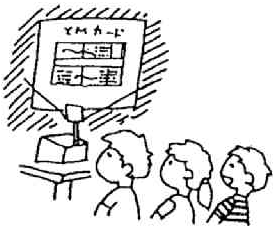
音の素材を探す児童

【実践５】よりよい表現をしようとする指導の工夫（視点３）　第６学年

ただ何となく，教師の言われたとおりに声を出す合唱でなく，一人一人の思いや感じたことを出し合い，互いのよさを認め合いながら，表現の工夫ができることは，どんなにすばらしいことであろう。

本事例では，合唱の指導における一人一人の思いや願いを表現として表していくため，指導の工夫として，ＹＭカード（やる気マンマンカード）を活用し，よりよい表現となるよう音楽をつくるようにした。特に，一人一人の感じ方をグループで生かすために，ＹＭカードにメモした自分の感じ方を基に，友達と話し合い，認め合える助言をしていく。さらに，グループの感じ方や工夫を学級全体の表現に生かせるよう，他グループの工夫をＯＨＰ等でわかりやすいように紹介したり，比較しながら，様々な表現で試みたりした。

1　題材　　「ひびけ歌声，とび出せ心！」



2　題材の目標

(1)　曲全体の感じをつかんで，自分なりの表現を工夫する。

(2)　自分の感じたことを発表し，友達の意見を聞き，よりよい表現をしようとする意欲や態度を育てる。

〔学習内容〕

(1)　曲全体の感じをつかんで，自分なりの表現を工夫する。

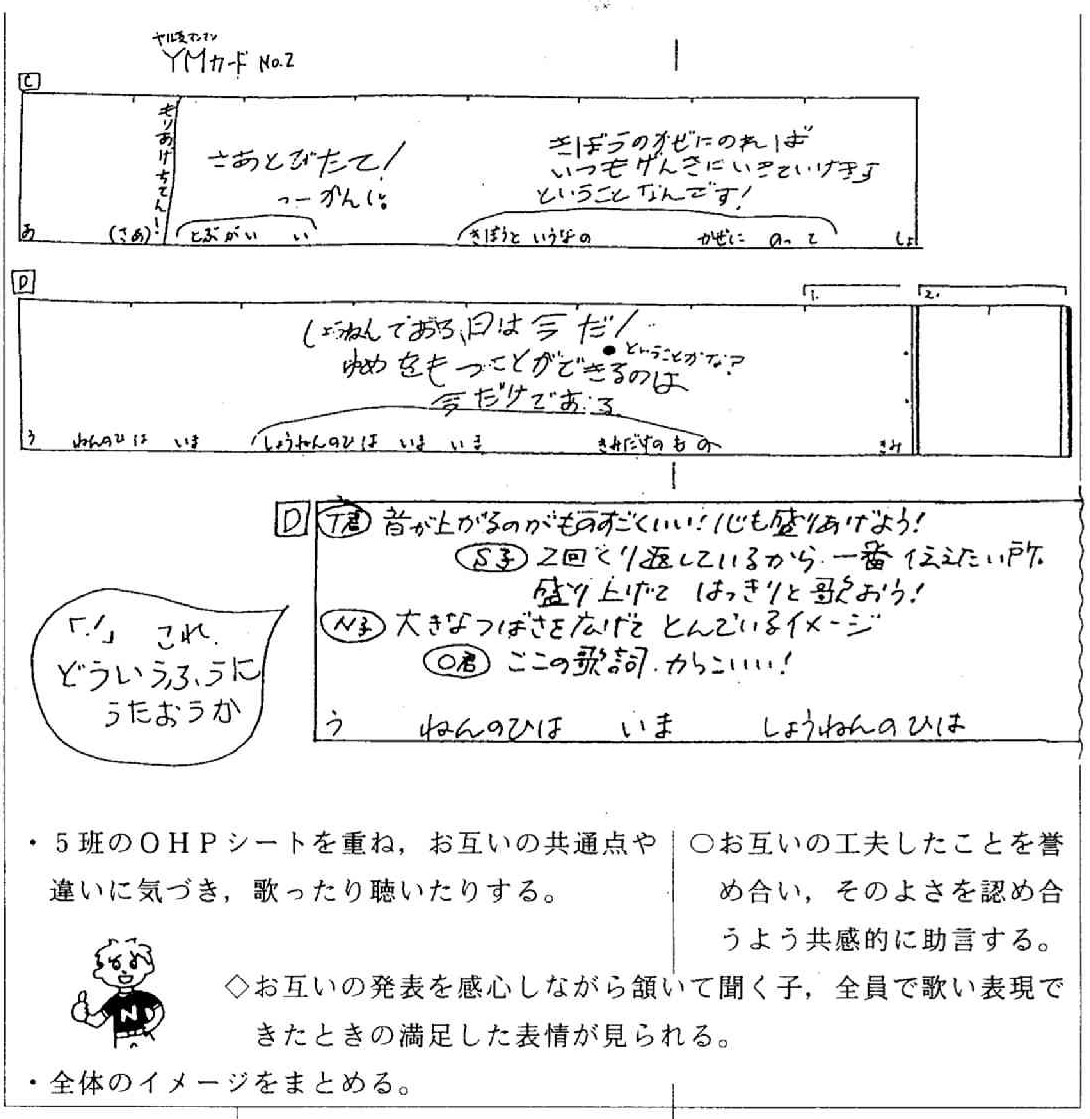
(2)　自分の感じたことを発表したり，友達の意見を聞いて話し合ったりする。

3　教材

「少年の日はいま」　しま　なぎさ作詞　　鈴木　行一作曲

4　指導の実際（６時間）　　◇印：教師の解釈

次	ね　ら　い	主な学習活動	○指導の工夫
第一次	曲の雰囲気をつかみ，各パートの旋律を覚えて歌う。	○ソプラノ，アルトのパートを練習する。 ○二部合唱をする。	○自分の感じたこと，次に頑張りたいことを書き込めるＹＭカード①を用意し，自由に記入できるようにする。
第二次	曲想を感じて表現の工夫ができるようにする。	○曲のイメージをＹＭカード②に書き込む。 ○グループで話し合い，曲のイメージをＯＨＰシートに書き込み，発表する。	○曲の変化や盛り上がり，強弱，速さなどに目を向けて，表現の工夫ができるように助言する。
	自分の思いをもとに，表現の仕方を工夫しよう		
	・グループで話し合い，盛り上がりを線や文字で書き込む。		○自分のＹＭカード記録をもとにグループで話し合うことで，一人一人の感じ方を生かすようにする。
	◇「希望」という歌詞から，また旋律が上向きのところから，盛り上げて歌おうとしていた。		



	・５班のＯＨＰシートを重ね，お互いの共通点や違いに気づき，歌ったり聴いたりする。 ◇お互いの発表を感心しながら頷いて聞く子，全員で歌い表現できたときの満足した表情が見られる。 ・全体のイメージをまとめる。	○お互いの工夫したことを誉め合い，そのよさを認め合うよう共感的に助言する。	
三次	曲をまとめる	○曲を仕上げ，録音する。	＊歌い方の違いを感じ，自ら工夫したことに喜びを感じる。

5　考察

２７名中，１５名の児童がＹＭカードに「！」を書いた。ＹＭカードは旋律の音高や音楽の表す気分，歌詞から受けるイメージなどを記録しやすく，「！」も児童が工夫した感じ方の記録となったと考える。Ｔ男は，「！」の部分が曲の山と感じ，その部分では特に目を輝かせ，気持ちを込めて歌おうとしていた。また，Ｓ子はＹＭカードに「！」を幾つか書き，歌詞から感じ取った盛り上がりだけではなく，フレーズごとの山を感じ取って歌おうとしていた。

以上のことから，ＹＭカードは児童の感じ方を表現に生かす指導の工夫として効果があると考える。さらに，一人一人のＹＭカードをＯＨＰで提示し，感じ方の似ているところや違うところを視覚的に見合うことは，互いの感じ方を学びあい，自分の表現に生かそうとする意識が児童の発言に表れた。

なお，一人一人の感じ方の違いを合唱としてどのように取り入れ，全体の表現にしていくかが，本実践の課題である。

【実践６】自信をもって表現する指導の工夫（視点４）　第１学年

音楽で表現する素晴らしさや楽しさを知り，いつまでも音楽を身近に感じながら成長していってほしいと考える。そのためには，低学年のころから自然に音楽に親しみ，音楽の楽しさを味わうことができるようにする必要がある。学校においては，１年生の時にしかできないことを，そして１年生だからこそ身に付けられることを，授業の中で培っていくことで音楽の楽しさを体験できるようにする必要がある。

本事例では，身体表現やリズム伴奏づくりを通して，自信をもって表現しようとする児童を育てる工夫について実践した。

1　題材　　「３拍子のリズムにのって」

2　題材の目標

(1)　３拍子のリズムにのって，リズム打ちや身体表現をする。

(2)　歌ったり，リズム打ちをしたり，表現をしながら音楽を楽しむようにする。

(3)　友達の表現のよさを感じ取り，一緒に楽しむようにする。

〔学習内容〕

(1)　正確な３拍子のリズム打ちに慣れ，拍の流れにのってリズム伴奏をする。

(2)　楽器を自分たちのイメージに合うように選び，リズムづくりをする。

(3)　歌詞やリズムに合わせて身体表現したり，友達の表現を模倣したりする。

3　教材

「とんくるりん　ぱんくるりん」　　滝　紀子作詞／川崎　祥悦作曲

4　指導の実際（本時４／５）

○学習活動　＜　＞児童の反応	※５つの視点　♡教師の支援　◇評価
○既習曲を歌う。 めあて うたにおどりやリズムをがったいしよう。	
○「とんくるりん　ぱんくるりん」を身体表現しながら歌う。	※音楽を味わい，自分なりに感じる。（視点２） ◇自分なりの身体表現をしようとしている。
○友だちの表現を見ながら，歌を歌う。 ＜あ，あのおどりがおもしろいな。いいな。＞ ＜ぼくだって，うまくできるよ。＞	※よりよい表現をしよう。（視点３） ※自信をもって表現しよう。（視点４） ※学び合い，高め合う。（視点５） ♡「いいなと思うおどりをまねしてごらん。」 ◇友だちの身体表現のよいところを見つけ，自分の表現に取り入れようとしている。
○歌を歌いながら，手でリズム打ちをする。	♡好きなリズム打ちをする。

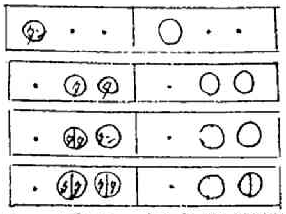
○２人で楽器を使って，リズム伴奏をする。他の児童は，手でリズムをとったり，歌ったりする。

＜うまく，できるかな＞　※自信をもって表現しよう。（視点４）

＜上手だな＞　※学び合い，高め合う。（視点５）

＜ぼくもできるかな＞

リズムパターン（提示）



♡３拍子にのって，リズム打ちをしているか，感じ取るようにする。

◇３拍子を感じ取って聴いたり，表現しようとしている。

◇友達のリズム伴奏のよいところを見付けている。

○グループで，好きな楽器，好きなリズムを選んで，リズム伴奏を工夫する。

♡グループで相談して，楽器やリズムを選び分担できるようにする。

♡歌を歌いながら練習できるようにする。

＜○○楽器がやりたい＞
＜みんなで合わせよう＞
＜うまく合うかな＞
} ※自分なりに感じる。（視点２）
※よりよい表現をしようとする。（視点４）

◇友達と一緒に，楽しく活動している。

○各グループのリズム伴奏に合わせて歌を歌う。

♡「友達のリズムをよく見たり，聴いたりしようね。」

＜友だちと頑張って合わせよう＞
＜ドキドキしちゃうな＞
} ※よりよい表現をしようとする。（視点４）

◇拍の流れにのって，正確な３拍子のリズム打ちをしようとしている。

○今日の学習のまとめをする。

５　考察

本実践の中で，身体表現やリズム打ち，リズム伴奏など，一年生なりに自信をもって表現していたようである。それはまず，教材が児童にとってのりやすく楽しい曲であったことである。また，リズムパターンや楽器など好きなものを児童自身が選ぶ場面があったことも活動欲求を満たしたと考えられる。リズムパターンをカードで提示したことも，児童に安心感をもたせ，自信をもった表現につながったと言えよう。学級担任との連携も密にし，特にグループづくりでは，担任と相談することによって，より活動しやすいグループをつくることができ，グループ活動での成就感もあったのではないかと考える。

【実践７】学び合い，高め合う指導の工夫（視点５）　第５学年

表現活動をするとき，指導者に頼ることだけでなく，自分の力で課題を見付けて表現することができたら，児童には大きな自信がつくだろう。そのような活動の積み重ねにより，児童は進んで音楽活動をするようになると考える。

本事例では表現と鑑賞の一体化を図り，自分の表現に生かすことを意図した。そこで，指導の工夫として，変奏曲を構成する音楽的要素（リズム，拍子，調，旋律の変化，楽器の音色の変化）を鑑賞で感じ取り，実際の変奏曲づくりに生かせるようにした。また，変奏する元の旋律は，低学年から親しみのある５つの旋律から選び，グループで変奏曲をつくるようにした。

1　題材　　「変奏曲にちょうせん」

2　題材の目標

(1)　旋律やリズム，速さ，楽器の音色の変化などを感じ取り，芸術作品として親しまれている変奏曲の楽しさや美しさを味わって聴く。

(2)　変奏曲が音楽的な要素の変化や音楽としての調和が大切であることを感得し，自分たちの変奏曲を友達と協力してつくり上げる。

(3)　自分たちの変奏曲を練り上げながら，納得するまで自分たちの表現にしていく。

(4)　それぞれのグループの変奏曲を聴き合い，そのよさを感じ取る。

〔学習内容〕

(1)　様子を想像しながら，歌曲「ます」を聴いたり歌ったりする。

(2)　主題の変化を感じ取りながら，ピアノ五重奏曲「ます」第４楽章を聴く。

(3)　５曲の簡単な旋律から自分が好きな曲を選び，同じ曲を選んだグループで変奏曲を分担してつくり，発表する。

3　教材　歌曲「ます」，ピアノ五重奏曲「ます」第４楽章　（シューベルト作曲）
　　親しみのある旋律　「かっこう」「ぶんぶんぶん」「さよなら」「ちょうちょう」「メリーさんのひつじ」

4　指導の実際（８時間）

次	ねらい	○主な学習活動　・子供の感じ方	☆指導の工夫
第一次（二時間）	変奏曲の音楽的要素を感じ取る。	○歌曲「ます」を聴いたり歌ったりする。 ・テレビＣＭで聴いたことがあるよ。 ・こういう歌だったんだ。いい歌だな。 ○ピアノ五重奏曲「ます」第４楽章を聴く。 ・きれいな音楽だね。 ・いろんな楽器に主題が受け継がれるね。 ・リズムや速さが変わっていくよ。 ・途中で全然違う音楽になったね。	☆テレビＣＭの録画を見て，親しみを感じるようにする。 ☆第４節までの歌詞の内容を理解して歌えるようにする。 ☆歌曲の第１節の旋律が主題になっていることを理解し，聴くようにする。 ☆興味深く聴けるように，読み物資料を使い，鑑賞する。
第二次	主題を選び変奏曲をつくる。	○変奏曲ができる音楽的要素を確かめ，一人一曲変奏をつくり，グループで確かめ合う。	☆児童が無理なく取り組める親しみのある旋律を用意し，選曲できるようにする。

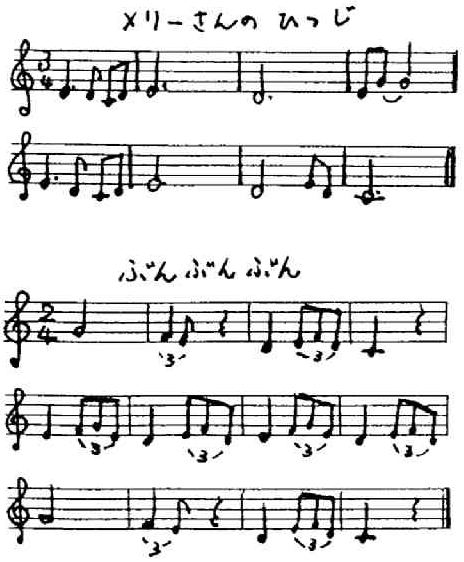
（五時間）	「ます」で感じ取った変奏曲の音楽的要素を自分の変奏に生かす。	・リズムを変えるとおもしろいよ。 ・拍子を変えてもおもしろいよ。 ・わたしは旋律に飾りをつけたよ。 ・「ミ」の音にフラットをつけたら感じが変わったね。 ・いろいろな変奏ができたね。すごい。 ・○○さんの変奏いいね。 ○グループで変奏の順番や演奏する楽器を考えたりしながら，変奏曲をつくり上げる。 ・順番はどうしよう。簡単な変奏からだんだん複雑な変奏にしていくと盛り上がるね。 ・楽器を変えると違った感じになるね。 ・グループみんなの変奏を全部演奏すると，すてきな変奏曲になるね。 ○演奏の練習をする。	☆個人で変奏をつくる時も，グループ内で相談したり，お互いの作品を確かめたりできるようにする。 ☆記譜が苦手な児童には文字で記録させ，教師がその演奏を聴き，採譜する。 ☆変奏曲つくりカードの活用 〔ぶんぶんぶん〕 まそう曲 メロディオン／ふつうの速さ メロディオン／シンバルを入れる メロディオン／はずんだ感じで 木きん／ふつうに バスオルガン／木きんでゆっくり 鉄さん／ちょっとゆっくり リコーダー／ふつうの速さ
第三次（一時間）	発表会で発表する。	○自分たちの工夫した変奏曲を自信をもって演奏する。 ○各グループの変奏曲を聴き，音楽的要素の変化を感じ取り，そのよさを見付ける。 ・みんなの前で発表して緊張したけど嬉しかった。よくできたと思う。 ・変奏曲っておもしろいね。 ・変奏させるとずいぶん違った感じの曲になるんだね。	☆リズム，拍子，調性，音色等，音楽的要素の変化に注意して聴くようにする。 ☆メッセージカードに感想を書き，各グループのよいところを認め合うようにする。

5　考察

本事例では変奏曲をつくる主題に，低学年から親しみのある五つの旋律を教材として開発した。旋律はすべて5音からできているので演奏しやすく，どの児童も進んで取り組めた。個人で変奏をつくる時もグループで集まって行ったので，お互いに学び合いながら自分の変奏をつくっていった。

発表会ではメッセージカードに感想を書いて発表し合い，音楽的によかったところを認め合ったので，各自に大きな自信がついたと考える。記譜の苦手な児童には文字で書くようにしたことで，楽譜で音楽を表現したいと思う児童も増えた。今後は，記譜を始めとする基礎・基本をどのような形で育てていくかが課題である。

児童の作品



Ⅲ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

この研究は，日常の音楽の授業で見聞きされる何気ない児童のつぶやきや表情，特に児童の内発的欲求の表れと見られるものに着目し，それを継続的に引き出すことによって，生涯にわたって進んで音楽を楽しむことのできる児童を育てたいという願いから進められた。

まず，「音楽の大好きな子」「自分なりの感じ方を大切にする子」「よりよい表現を求めて工夫する子」「自信をもって表現する子」「学び合い，高め合う子」という児童像を設定し，この児童像そのものを目標とすることによって，より児童の側に立った授業を工夫してきた。また，目指す児童像の実現を検証するために，学習活動を「音楽との出会い」「音楽を味わい自分なりに感じる」「よりよい表現をしようとする」「自信をもって表現する」「学び合い，高め合う」という児童像と対応した５つの視点でとらえようと試みた。

その結果，以下の成果を得ることができた。

・これまで題材に応じて行ってきた指導の工夫を，５つの視点でとらえ直したことによって，音楽教育を通して育てたい児童像と，それを実現するための指導の工夫とが，より具体的に結び付くようになった。

・音楽との出会いを工夫することによって，児童が音楽を自分のものとしてとらえるようになり，進んで音楽と向き合い，かかわろうとする姿が見られてきた。

・学習カードや視聴覚教材を工夫し，活用することによって，今まで気付かずにきた自分の感じ方を児童自身が自覚することができ，教師もそれを見取ることが可能となった。

・友達の感じ方や表現の違いを知ることによって，それを自分の表現に生かし，更によりよい表現を求めるようになった。

・教師や友達と共に一人一人の感じ方を大切にする温かい雰囲気の中で，自信をもって自分の感じ方を表現へ生かそうとするようになってきた。

以上のような音楽活動を通し，友達や教師との人間的なかかわりも一層深まり，「自分の感じ方を生かし，進んで音楽活動をする児童」が育ちつつある。こうした児童の姿こそ，“生きる力”として注目されている主体的な判断力，行動力，創造性を身に付けた児童像と考えている。

2　今後の課題

本研究を通し，多くの成果を得ることができたか，今後も次の点について継続して研究していく必要がある。

・児童の内発的欲求を刺激する魅力ある教材の開発を行う。

・一人一人の感じ方を見取り，より豊かな感じ方へと導く指導と評価の方法を工夫する。

・一人一人の感じ方を全体の表現に生かし，よりよい表現にするにはどのような指導の工夫をしたらよいか更に研究を進める。

・感じ方を生かし，進んで音楽活動をするために必要な知識や技能を精選し，それらを系統的に位置付けた年間学習指導計画の作成と指導法の検討・改善を行う。